

平成23年度教育課程活動にかかわる現状と課題

部長 上野 元一

1 教育課程活動の動向

【上越地区】

糸魚川市立田沢小学校(研究主任：嶋田純一教諭)が、県小教研指定校として11月9日に「探究する子どもをはぐくむ教師の支援を探る」と題して2年次研究の中間発表を行った。上越市立牧小学校で「地域とともに歩む学校を目指して」と題して実践発表した。

【中越地区】

三条市では、第三中学校区と第一中学校区で小中一貫教育モデル中学校区として、「9年間を見通した小中一貫教育の在り方について」の研究に取り組んでいる。11月8日と11月24日に、各中学校区で9年間の発達段階に応じた教育支援の在り方やカリキュラム編成、授業実践を通した中間発表会を実施した。

【下越地区】

五泉市では、新教育課程完全実施における運営上の問題点や初年度に生じると思われる問題等について研修を実施した。胎内市では、多忙化解消に向けた教育課程の編成について実践発表会を実施した。

【新潟地区】

新潟市立新潟小学校(研究主任：羽田雄偉教諭)が12月2日に文部科学省指定の研究開発学校として3年次の研究発表会を行った。「自分自身を取り巻く環境に進んでアクセスし、適切にコミュニケーションを図る子どもの育成」と題して新教科「環境コミュニケーション科」を創り出す研究について実践発表した。

2 教育課程活動の課題

- (1) 各学校では、今年度から新学習指導要領に基づいて教育課程を実施してきた。1年目の反省を踏まえ次年度に向けた教育課程の編成作業を進めている。しかし、閉校や学級減に伴う教員数の減少から教育課程部会が設置されていない郡市が多くなっており、情報交換の機会がもてない状況が出てきている。
- (2) 中越地区の三条市や南魚沼郡では、小中一貫教育の導入が進められており、中学校区を中心に研究が進められている。小中連携による教育課程の編成が喫緊の課題となっている。